令和8年熊本地震

令和6年能登半島地震から2年6ヶ月、そして平成28年熊本地震から10年3ヶ月が経過した7月28日、最大震度7の大地震が再び熊本を襲いました。報道による地震の規模から、能登半島で私たちが経験したような事態が再び起こるのではないかと感じました。

穴水町は、災害時相互応援協定を結んでいる熊本県西原村へ職員を派遣すべく調整に入り、翌日には3名を派遣しました。また、穴水町の支援に入っていただいているボランティア団体「NPOレスキューストックヤード」も発災直後に熊本県御船町に入り活動を開始されました。その中で「避難所の物資が不足している」との連絡を受け、穴水町から段ボールベッドや水、食料などをトラックで送りました。

発災後数日で被災地のフェーズはめまぐるしく変化し、ニーズも多様化していきます。避難や支援の長期化が見込まれる中で、現場の情報把握は欠かせません。幸い、西原村には大きな被害はありませんでしたが、今後は西原村自身も熊本県内の他自治体を支援していくと思われるため、穴水町も後方支援として可能な限り協力していく考えです。

さらに石川県は、熊本県宇城市への対口（たいこう）支援チームとして現地に入ることとなり、穴水町からも8月21日から9月5日までの期間、罹災証明書の発行業務支援として職員2名を派遣することになりました。同じ大地震を経験した自治体としての知見を生かし、被災者に寄り添った支援ができると考えています。

今回の地震を通じて、改めて日常からの備えの必要性を痛感いたしました。災害は「いつ、どこで起こるか分からないが、必ず起こるもの」として捉え、意識を高めていかなければなりません。

私たち自身も未だ全国の自治体からご支援をいただいている立場ですが、「困ったときはお互い様」の精神で、これからも被災地にしっかりと寄り添ってまいります。

穴水町長　吉村 光輝